

1977年

『タイムボカンシリーズ ヤッターマン』（英語表記：Yatterman）は、1977年1月1日から1979年1月27日までフジテレビ系列で、毎週土曜18:30 - 19:00（JST）に全108話が放映された、タツノコプロ制作のテレビアニメ。「タイムボカンシリーズ」2作目に当たる一方、同シリーズとは別に「ヤッターマンのリメイク」という扱いの作品がいくつか作られている。

ヤッターマン（2008年のテレビアニメ）- ytv・日本テレビ系列で2008年1月から2009年9月まで放映された連続テレビアニメシリーズ。

・ヤッターマン（映画）- 松竹系で2009年3月に上映された日本の実写映画。

・夜ヤッターマン - 2015年1月から3月に放映されたテレビアニメ。

・グッド・モーニング!!!ドロンジョ - 日本テレビ系列で放送の『ZIP!』内「あさアニメ」として、2015年3月から2016年3月まで放映されたコーナーアニメ。

【概要】

地球上のどこかにある“お宝”のありかを示したアイテムを特定の個数集めようとする、ヤッターマンとドロンボー一味との戦いを描いた作品。

「ヒーローに変身する男女ペアの主人公」「ゾロメカ」「おだてブタ」「三悪メカ爆発時のドクロ雲」など、後にシリーズを象徴する

ことになる要素のほとんどは本作品が初出である。ツナギをベースにしたヒーローコスチュームというのも異色である。シリーズの中でも

タイムトラベルをしない希少な作品でもある。題材は初期には世界七不思議（雪男・モアイ・ネッシーなど）や世界各地の風物

（カーニバルなど）、世界的に有名な俳優・歌手などを扱っていた。その後2クール目以降より、『タイムボカン』のように

名作児童文学や昔話、伝記などのパロディーが増える。舞台も江戸時代まがいの町を筆頭に、中世ヨーロッパ・古代ローマ・

古代ギリシャまがいの町といった、明らかに現代とは思えない話が多い。サブタイトルの大半や登場人物・舞台は、これらの物語の

元になっている話がわかるようなギャグパロディーとなっていた。2年間の平均視聴率は20.1%、最高視聴率は第11話の28.4%

（タツノコプロが所有する資料による）と、タツノコプロ制作のアニメの中で最も高い数字を残している。タカトクトイスが

発売したヤッターマンの玩具は出荷数120万個を超えた。番組終了後も前述の通り本作品のリメイク作品が度々制作された他、

1990年代にリリースされたOVA『タイムボカン王道復古』でも初代の『タイムボカン』を差し置いて本作品がメインを飾るなど、

本作品がフィーチャーされる機会はシリーズ中でも比較的多い方である。文字多重放送を実施しており、

高田ガン/ヤッターマン1号のセリフは黄色。上成アイ/ヤッターマン2号のセリフは青色。その他の人物のセリフは白で表示される。

【ストーリー】

おもちゃ屋の息子・ガンちゃんは、父親が製造途中で放棄してしまった大きな犬型のロボットをガールフレンドのアイちゃんと

一緒に密かに完成させる。しかしガンちゃんは父親がロボット犬を金儲けの道具にしか使わないであろうことを危惧し、

このロボット犬を正義のために役立てることを考え、自らも正義を守るヒーロー『ヤッターマン』となることを決意した。

一方イカサマ商売で活動資金を荒稼ぎする悪党・ドロンボー一味のもとに泥棒の神様を自称するドクロペーと名乗る謎の人物から

「大金塊のありかを書いたドクロストーンが4つに割れて地球の方々に散らばっていて、1つは自分が持っている。もし残り3つの

ドクロストーンを見付けることができれば、金塊は折半しよう」という申し出を受け、ドクロペーに従う。ドロンボーの計画を

知ったガンちゃんたちは、ロボット犬=ヤッターマンを駆って一味に立ち向かう。

【スタッフ】

製作 - 吉田竜夫（第1話 - 第36話）、吉田健二（第37話 - 第108話）

企画 - 鳥海尽三、酒井あきよし

原作 - タツノコプロ企画室（連載誌 - 『てれびくん』、『小学館学習雑誌』）

チーフディレクター→総監督 - 笹川ひろし（全話）、原征太郎（第1話 - 第45話）

プロデューサー - 柴田勝（第1話 - 第58話）、永井昌嗣、加藤長輝、内間稔、大野実

キャラクターデザイン - 天野嘉孝、中森恵子、高田明美

メカニックデザイン - 大河原邦男

美術担当 - 岡田和夫、横瀬直人

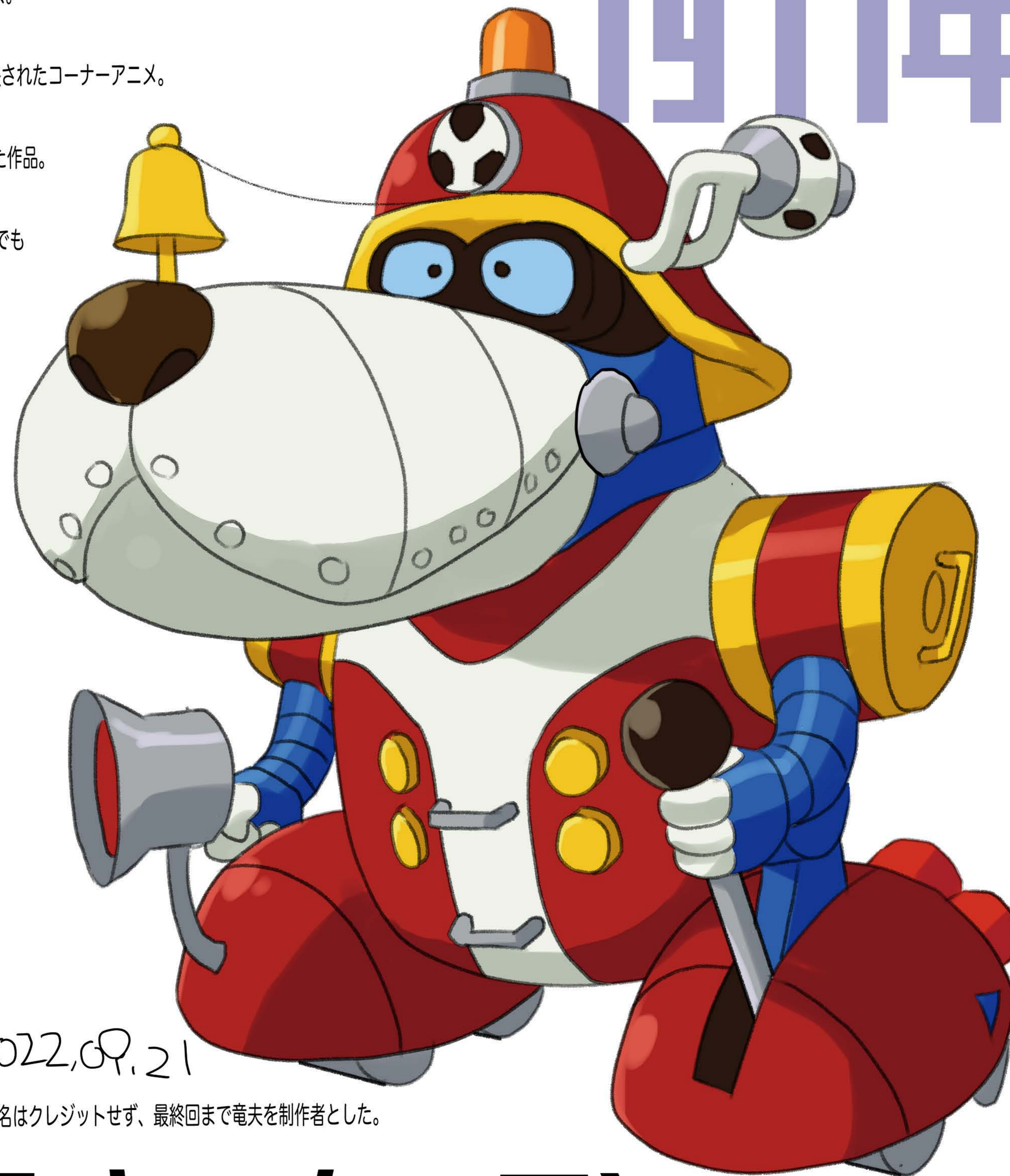
制作協力 - アニメルーム・読売広告社（ノンクレジット）

制作 - フジテレビ、タツノコプロ

吉田竜夫は放映中の1977年9月5日に他界。その後は竜夫の後を継いだ弟の吉田健二が制作の指揮を執った。しかし本作品では健二の名はクレジットせず、最終回まで竜夫を制作者とした。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

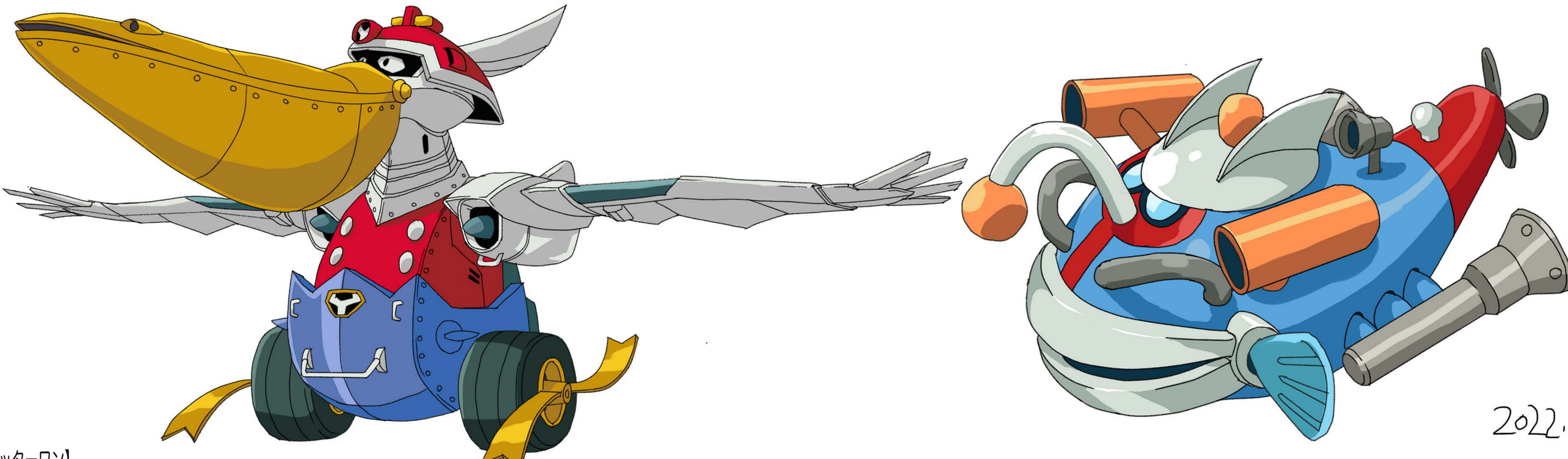
2022.09.21



タイムボカンシリーズ ヤッターマン

タイムボカンシリーズ ヤッターマン

【ヤッターメカ】
コパンダ、ドジラ、よこづな以外の声は全て池田勝。第45話までは出動したメカのみが表記された。第44話では「ヤッターワン・ペリカン」と表記された。なお、ヤッターアンコウは「ヤッターアンコー」と表記されている。第46話でヤッターキングが登場してからは、実際に登場しなかった第91話から第107話でも、ヤッターキングが表記された。ヤッターゾウ登場後は搭載メカを「アクションメカ」と呼ぶこともあった。



2022.11.27

【ヤッターワン】
ガンちゃんたちが作り上げた犬型メカ。地上戦専用であり飛行能力はないが、水上航行が可能のため地球上のどこにでも移動できる。ホネ型のメカの素を食べてパワーアップ、様々な生き物（ワニ、アリ、カメ、カバ、ネズミ、スカンク）のゾロメカ「ビックリドッキリメカ」を出動させる。アイちゃんが好きで、ガンちゃんやオモッチャマの命令は聞かないがアイちゃんの言うことだけは聞く。エンジンの起動は手動のクランクハンドル式であり、初期オープニングはガンちゃんがこれを回し起動させるシーンから始まる。これは、乗員が機外に掴まって移動することとあわせてモチーフになったのが消防車であるためとの指摘が『BSアニメ夜話』においてなされている。他にも、頭部エンブレムから紐、エンブレムが開くとそれを引く手が出ていて、鼻の上の鐘に結び付けられていて、それが鼻の上の鐘を鳴らしている。（中略）第45話でドロンボー側メカの巨大追跡型ドリルミサイルから逃げ切れずにドロンボーメカとともに巻き込まれる形で大破。その後、ガンちゃんによってヤッターキングに改造された。また、第58話以降は神棚に祀られた「ヤッターワンの神」に礼拝してから出動するという描写がなされた回もあった。

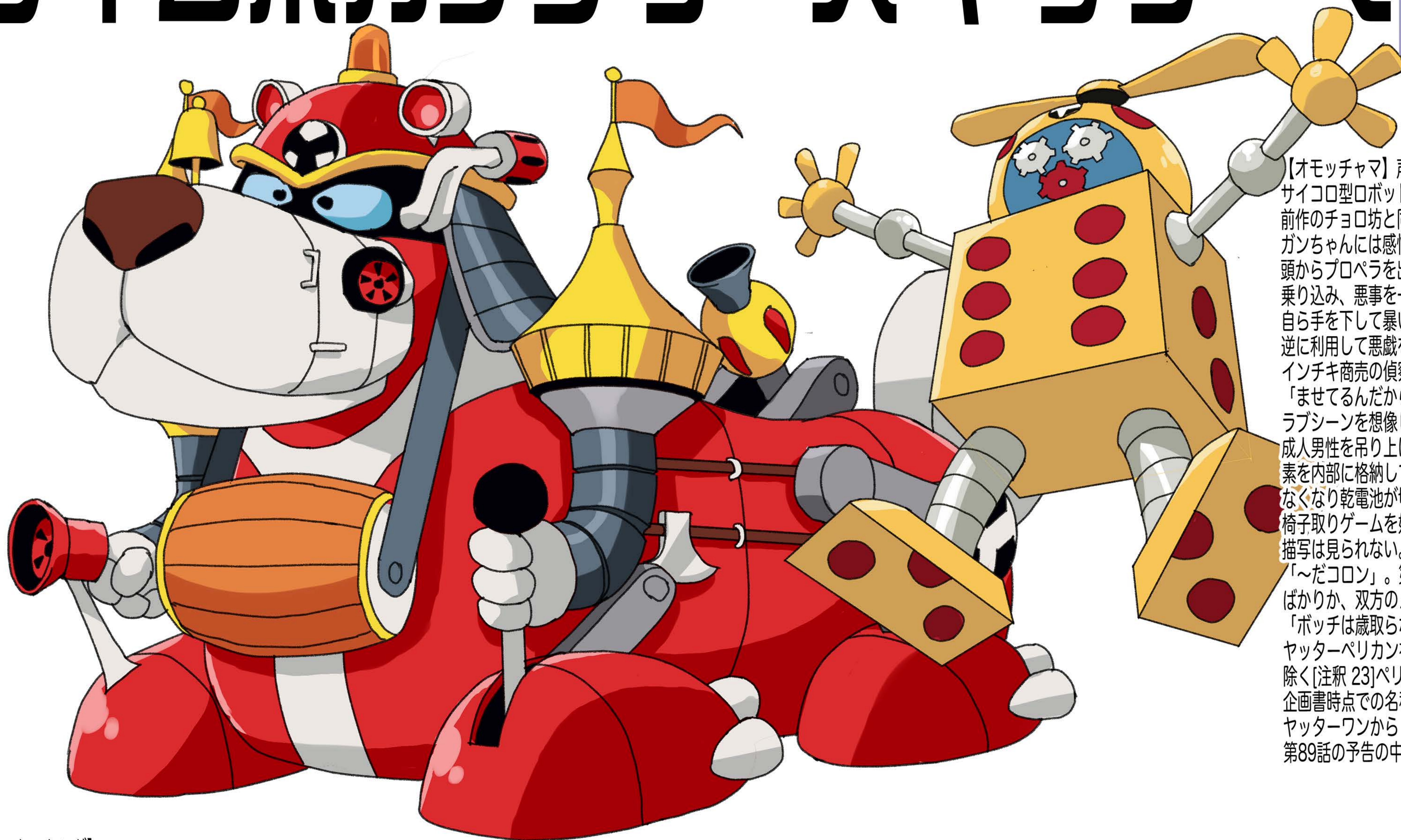
【ヤッターペリカン】
ペリカン型メカ。初登場は第14話。主に飛行による移動を行い空中戦を得意とするが、車輪による陸上走行も可能である。水鳥モチーフということもあって水上走行も車輪に付いている外輪で可能で外輪は攻撃に転用することも可能なほど頑丈。甲高い声が特徴。メカの素はドジョウ型。鳥形のビックリドッキリメカ（初期においては「ビックショックメカ」と呼称）を作る。ヤッターキングが登場以降は、最終回の全機出動まで出動はなく、設定ミスでアンコウのメカの素を食べ、他のメカのようにレールを出してビックリドッキリメカを発進させた。ワンとペリカンの設計者はガンちゃんの父で、機体は元来は彼の経営する「高田玩具店」のマスコットメカとして店頭掲示される予定だったが、何かの理由で頓挫し放置されたもの。このことは劇中でも言及されている。42話ではドロンジョから「ヤッターアヒル」と呼ばれていた。

【ヤッターアンコウ】
アンコウ型メカ。初登場は第27話。主に水中移動を行い水中戦を得意とするが、飛行や陸上移動も可能である。第28話では出動2度目にして宇宙に出動した。あんパン型のメカの素で魚類など水棲動物のビックリドッキリメカ（当初は「ビックラヒャックラメカ」とも呼称）を作る。ヤッターマンが内部に乗り込むことができる潜水艦メカであるが、他のヤッターメカ同様に機外に掴まって搭乗することもできる。ただし他の大抵のヤッターメカが肩部分に当たる関節部に搭乗グリップがあるのに対しアンコウだけは肩に当たる部分は収納式になっているので鬚部分をグリップとして掴むようになっている。通常のコクピット内にもメカの素を食べさせることができる。前期メカ3台中唯一本体側部の手の構造が完全なヒシ状になっていて人間のような手の表情はつけられない。ドロンジョには「ヤッターナマズ」と呼ばれていた。なお、ヤッターアンコウがゾロメカを出すときのファンファーレは前作の『タイムボカン』で「今週のハイライト」の場面に使われていたものに、水泡音のエフェクトをかけたものである。武器はヤッターワン同様の放水や背びれのカッターなど。さらには口の中にハンマーや鉄鍋などの凶器を隠していた。ヤッターキングが登場以降は、第54話でヤッターキングに格納される形で出動した場合を除いて、最終回の全機出動まで出動はなく、設定ミスでペリカンのメカの素を食べた。本機がガンちゃん的设计した初の単体メカとなる。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

タイムボカンシリーズ ヤッターマン

47年



【オモッチャマ】声 - 桂玲子
サイコロ型ロボットで、ガンちゃんの父親が経営する高田玩具店のマスコット。前作のチョコ坊と同様にロボットでありながら喜怒哀楽の感情を持つが、ガンちゃんには感情を否定されている[注釈 22]。乾電池をエネルギー源とし頭からプロペラを出して飛行することができる。ドロンボー一味のアジトに乗り込み、悪事を一番先に察知する役割。ドロンボー一味のインチキ商売を自ら手を下して暴いたこともあり（第28話）、さらにはインチキのからくりを逆に利用して悪戯をしたこともある（第38話）。一方でおませな一面もあり、インチキ商売の偵察中にドロンジョの美貌に目が行ってしまい、ガンちゃんに「ませてるんだから!」と一喝されたり（第7話）、ガンちゃんとアイちゃんのラブシーンを想像して2人に「ませすぎ!」と一喝されている（第86話）。成人男性を吊り上げることもできる（第81話）。ヤッターキング用のメカの素を内部に格納していたこともあるが、1度取り出すと重すぎて自力では持てなくなり乾電池が切れる描写がある。ヤッターキングの内部仕様変更後は、椅子取りゲームを妨害された第66話を除き、メカの素を取り出す直接的な描写は見られない。少々生意気な一面もある。一人称は「ボッチ」で、語尾は「～だコロン」。第101話では、人間であるヤッターマンやドロンボー一味ばかりか、双方のメカも古くなった描写がされる中、オモッチャマだけ「ボッチは歳取らないから」とそのままの姿で出ている。ヤッターペリカン初登場の第14話から新ヤッターメカ登場までの間の第44話を除く[注釈 23]ペリカン出動話数、および第58話のエンディングでは、企画書時点での名称「サイコロ」でクレジットされている。第41話ではヤッターワンから「(サイ) コロンはうるさいの!」と言い返される場面がある。第89話の予告の中で初めて「三悪」という言葉が登場している。

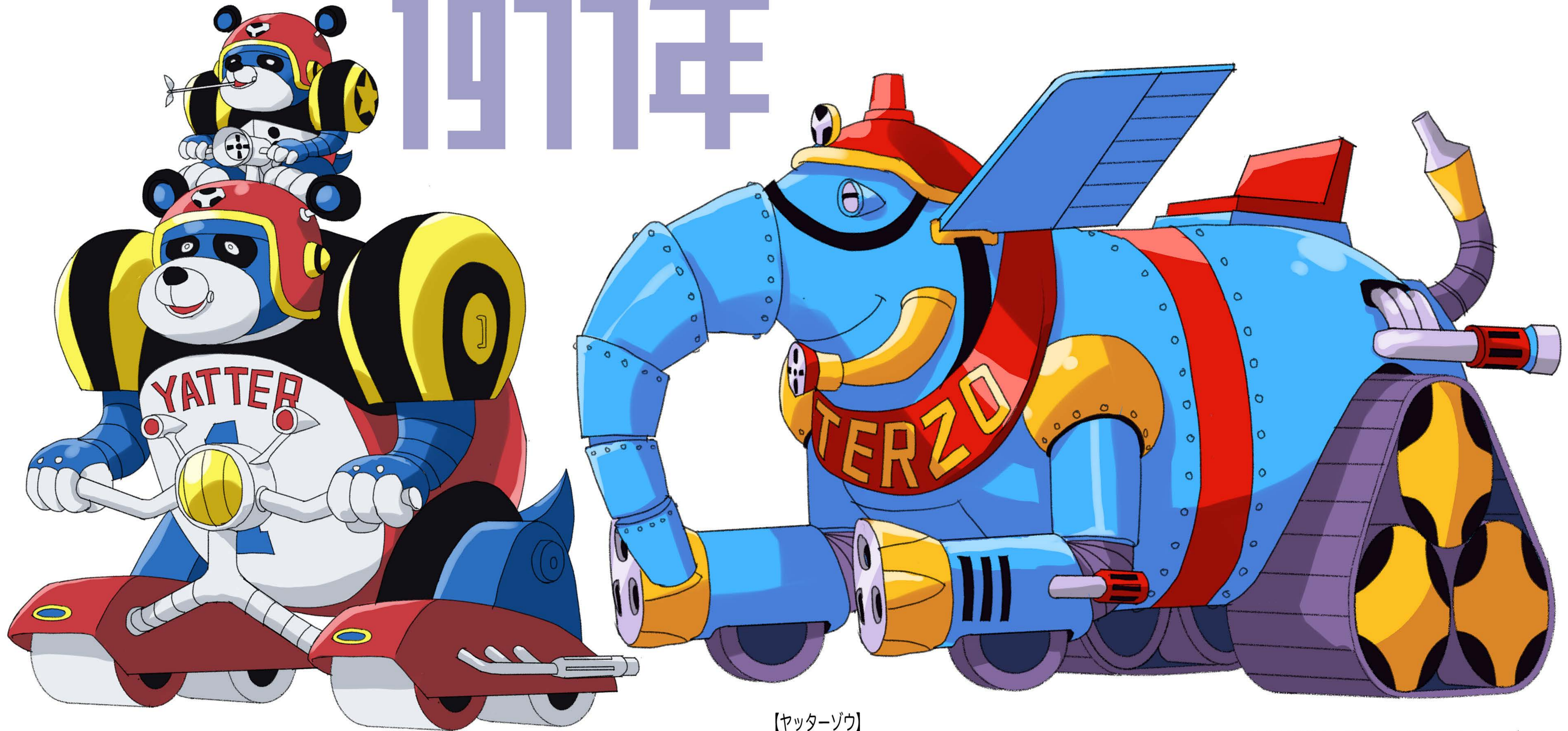
【ヤッターキング】

第45話で大破したヤッターワンをガンちゃんが1週間徹夜して改造したメカ。ヤッターワンより遙かに大型であり、後方に大幅に長くなった胴体部を持つ。ヤッターワンが後ろ足のみで立ち、前足を「両手」として使う二足歩行型だったのに対し、ヤッターキングは「両手」とは別に「四本足」を持つケンタウロス型のスタイル（手を含めると「六本足」）となった。第50話では直立もしている。通常ヤッターマンたちは口部分の外部側面に掴まって移動するが、2度の宇宙出動の際には内部に乗り込んだ。首には人命救助犬セント・バーナードをモチーフとした樽が付けられている。この樽の中に鼓笛隊をモチーフとしたファンファーレメカが全部で10体入っている。メカの素はヤッターワンと同様に骨型だが、パワーが10倍入っており、その分重量も10倍である。そのため投入方法は1号がジャイアントスイングで投入したり、オモッチャマが直接投入するほか、ゲストキャラが行うなど様々なパターンがあり、さらに第53話のみ、自分で飛行して投入するメカの素が登場した。ドロンジョには「ヤッターギャング」と呼ばれていた。ヤッターワン同様、様々な生き物のビックリドッキリメカを出すのが、ヤッターワンのころによく出していたゾロメカ（カバヤスカンク）を出すこともあれば、ヤッターワンのころとは違ったペンギン、ノミ、象などの生き物が出てくることもあった。また、赤鬼や河童、昔話の主人公である桃太郎、金太郎、浦島太郎が出てくることもあった。放水器から出すことも可能。チンジャラ砲や放水も、ヤッターワンから継承されている。大型化した代償としてワンでは登れたであろう急な山岳を乗り越えることが出来ないという弱点が第69話であらわになり、飛行能力を持つヤッターゾウに出番を譲ることになる。後に胴体部に他のヤッターメカを格納する母艦（もしくは移動要塞）としての機能も持つようになった。第54話でヤッターアンコウを格納したのが最初である。第58話からは毎回ヤッターパンダ&コパンダ、ヤッタードジラ、ヤッターブルをドラム式格納庫に収容して基地を発進するようになった。胴体部の前半分が上に持ち上がって格納メカを発進させヤッターマンたちは降下用の手すりを伝って各メカに搭乗する。ただ最終回でヤッターペリカン、ヤッターアンコウを格納して出動した際には、口からスロープを下ろして発進させており、こちらは設定ミスと思われる。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

タイムボカンシリーズ ヤッターマン

1977年



【ヤッターパンダ&ヤッターコパンダ】声 - 滝沢久美子 (コパンダ)

パンダ型のメカ。コパンダは名の通り子供で、普段はパンダの頭上に乗り、サイレンを手動で回す。コパンダはパンダを「ちゃん」（父ちゃんの意味）と呼ぶ。コパンダ独自で行動する場面も時折見られ、特に初登場の折、ドロンジョが悪態をついてきたことへの仕返しに、吹きつけた笹笛でドロンジョの服を裂いて乳首を露わにさせており、さらにボヤッキーがズルした時も逆にヤッターマンが有利にするよう仕向けるなど見た目に反してえげつない一面も見える。初出動は初登場した第58話。動物園で飼われているパンダの餌であるサトウキビ型のメカの素で、野菜や果物をモチーフにしたビックリドッキリメカを作る。肩からフットボールタイヤを飛ばして攻撃する。ファンファーレはコパンダが咥えている笹笛を吹き鳴らす。

【ヤッターゾウ】

第91話より登場した、ヤッターキングの後継機となる大型のゾウ型母船メカ。この回から最終話まで出動している。ヤッターキング同様巨体で、これまでのメカと同様外部側面に掴まって移動するが、内部に乗り込むこともできる。他の作品に登場する同種のメカと異なりそれらに見られるような巨大な牙がなく牙にあたる部分には左右1対の大型サイレンが備えられている。外部に搭乗する際ヤッターマンたちはこの部位に足をかける。ダンボのように耳を駆使して飛行が可能。鼻からの放水が可能。キングと違い初登場の91話を筆頭に直接先に攻撃を仕掛ける場面は少なくビックリドッキリメカも出動させる場面はない。口癖は「だゾウ」。ブル、ドジラ、パンダ&コパンダ、よこづなを搭載している。各メカはヤッターキング同様ドラム式格納庫に収納されていて出動時には機体前部のハッチを開いて発進させる。勝利のポーズの後起こす地響きはキングをも上回る衝撃で、最終回はキングと並んで勝利の四股を踏んだ。エンディングでは他の内蔵メカと同様にゲストキャストテロップの部分に記載されていた。

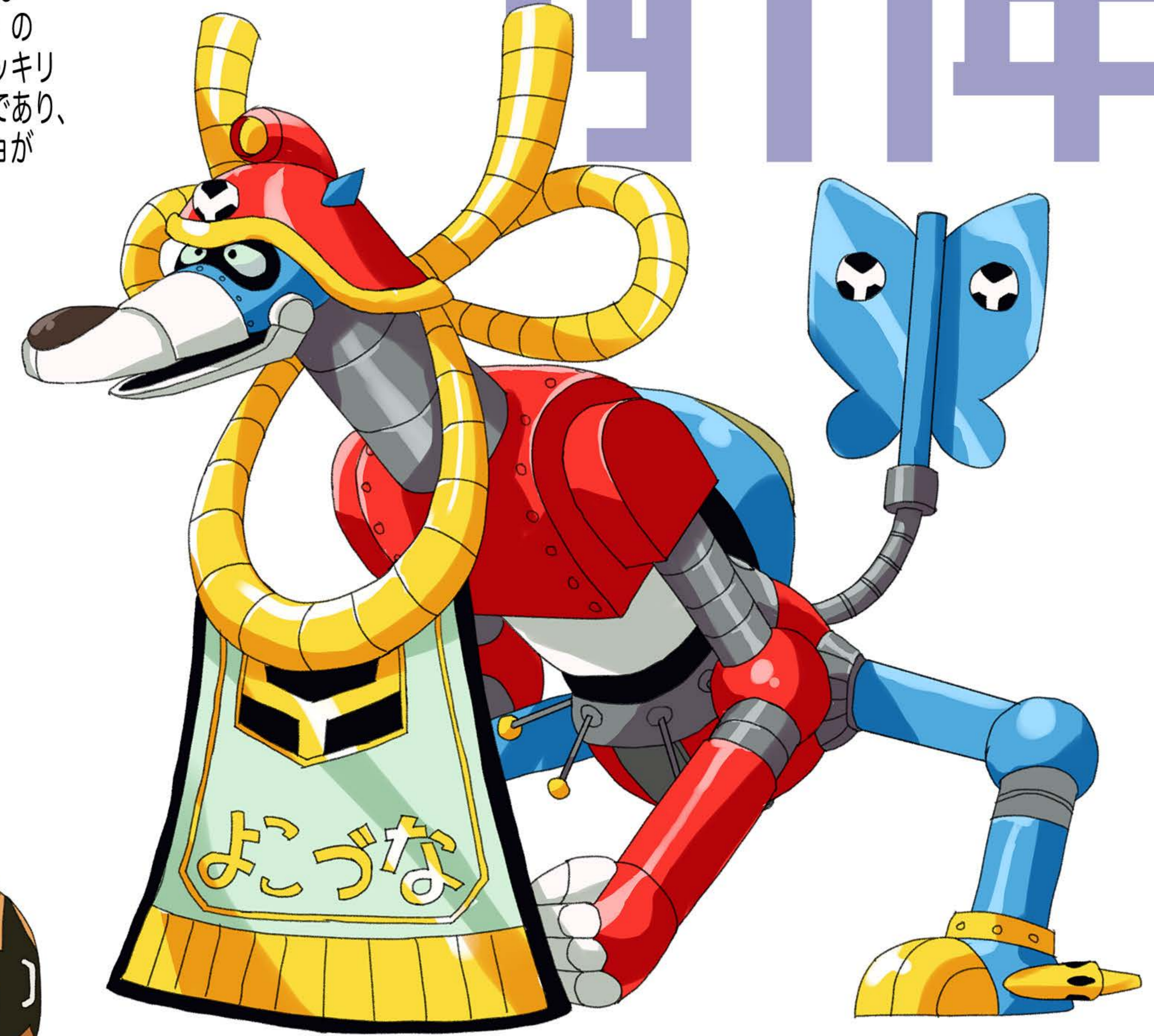
出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

2023.03.07

<http://moto-material.lsv.jp/>

1977年

【ヤッターよこづな】声 - 緒方賢一
 横綱（闘犬）型メカ。初登場はヤッターゾウと同じく第91話。第91話以降のほとんどの回で出動している。金平糖のような突起がついた白い球形（番組内では白星型と説明していた）のメカの素でお菓子やパンなどをモチーフにしたビックリドッキリメカを作る。闘犬をモチーフした割には体格が異常に華奢であり、毎回悪玉メカと相撲をとるも負けてばかりいた。ドロソジョが「ヤッター前頭三枚目」、「ヤッターおむすび」または「ヤッターふんどしかつぎ」とおちよくる。語尾に「〇xでごんす」と言うことが多い。第101話の50年後の設定では、すっかり古びてしまっており、メカの素がうまく飲み込めずにドロソジョに呆れられ、ビックリドッキリメカを出動させる段になっても、呼び出しが映るブラウン管は故障気味であった。



【ヤッターブル】
 ブルドッグ型メカ。第58話でその姿が披露され、初出動は第63話。第64話では宇宙で戦った。逆立ちをした変わった姿で行動。少し恥かしがりやな性格だが、タフで一度噛み付いたら絶対に離さない。ヤッターワンと同じくアイちゃんが大好きでファンファーレメカも同じだが差別化で骨ではなくホットドッグ型のメカの素でビックリドッキリメカ[注釈 32]を作る。ドロソジョにはさまざまな名前と呼ばれる。出番は11回と一番少なく中期3台中唯一降下用の手すりでのヤッターマン搭乗シーンが挿入されていない。ヤッターゾウ登場以降は最終回まで出撃していない。
 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



【ヤッタードジラ】声 - 田中勝（第58話のみ富山敬）
 恐竜（水竜）型の小型潜水艇メカ。第58話でその姿が披露され、初出動は第59話。脚部の足部分はスキー板状になっており、水上や雪山の滑走などが可能である。ひょうきんな印象を与える表情の顔ととぼけたしゃべり方が特徴で語尾に「〇〇ズラ」を付けて話すクセがある。ドラ焼き型のメカの素で日用品をモチーフにしたビックリドッキリメカを作るが、第90話では卵メカを出していた。他のヤッターメカとは違い、ゾロメカを複数種作ることがあり、これらを組み合わせる。ヤッターアンコウと同様に内部に乗りこめるため、メカの素は口に放り込む以外にコックピット内にあるドジラの顔型レリーフの口からも食べさせることができる。尻からファンファーレメカの卵を産む。ファンファーレメカは鍵盤ハーモニカでの演奏が終わると卵に戻り跳び上がってドジラの尻の穴に戻る。ドロソジョに「ヤッターマヌケ」やピア樽と揶揄される回もある。

2023.03.11

タイムボカンシリーズ ヤッターマン

タイムボカンシリーズ ヤッターマン

【ヤッターマン】

2人揃って「ヤッターマン」。ヤッターワンを完成させた2人はドロンボー一味の悪巧みを知り、ヤッターマンとなって戦う。基本的に何らかの形でドロンボー一味の企みを察知する。

【高田 ガン (たかだ ガン) / ヤッターマン1号】声 - 太田淑子 / 喜多村英梨 (タツノコ VS. CAPCOM)

本作品の主人公。愛称は「ガンちゃん」で、13歳の少年。一人称は「俺」。父が経営する高田玩具店の一人息子。身長165cm。正義感と熱血漢に溢れる性格の持ち主だが、ドロンボーに対しては容赦がなく、悪党相手とはいえ、彼らを騙したり、悲惨な姿を見ようとするなど正義の味方らしからぬこともする。武器はケンダマジックだが、第37、38話のみタカトクが販売していたシュルシュルカッター（薄い物を切り裂く熱線銃。元は発泡スチロールを電熱線の熱で自在に切り取る工作用器具）も使用している。いつもは常に青色のツナギを着ており、変身する際は空に投げたツナギを裏返しに着装してヤッターマン1号となるが20話ではスーツが隣に落ちるハプニングに見舞われている。ドロンボー一味の前に姿を現す際は決め台詞（「ヤッターマンがいる限り、この世に悪は栄えない!」というパターンが多い）を発す。決め台詞後には歯をキラリと光らせるが、第62話では目と歯に続いて股間を光らせ、ドロンボーの3人をズッコケさせ、ドロンジョに「光ってりゃいいってもんじゃないよ!!」と言われた。後期以降からはドロンジョを捕まえて口説くシーンが定番になり、彼女の心を弄ぶが、アイちゃんの怒りを買い、お仕置きされる。注射が大嫌い。第101話で描かれた50年後の姿では、白い髭を蓄え、腰痛持ちであり、ドロンジョと抱き合っただけでも満更でもない表情をしていた。

【上成 愛 (かみなり あい) / ヤッターマン2号】声 - 岡本茉莉 / 加藤英美里 (タツノコ VS. CAPCOM)

愛称は「アイちゃん」で、12歳の少女。一人称は「私」。ガンちゃんのガールフレンド。父が経営する上成電気店の一人娘。身長161cm。正確な誕生日は不明だが、第13話では誕生日を迎えている。1号同様正義感が強く愛に満ちているがドロンボーには容赦がなく、悪党相手とはいえ暴言を吐くなど正義の味方らしからぬこともする。武器はシビレステッキ。12歳だが、ガンちゃんに合わせて20歳弱程度の女性の体格で描かれている。ガンちゃんと同じようにいつもは黄色のツナギを着ている。変身する際は空に投げたツナギを裏返しに着装する。決めゼリフ（まれに「ヤッターマンがいる限り、この世に悪は栄えないわよ」とブリっ子のように言う場合あり）の後に目をキラリと光らせる。2人の決めゼリフの後にドロンジョが「目医者と歯医者のコマーシャルやるな!!」などとしばしば反発する。また、第97話では上半身の至るところがキラキラ光る場面が見られた。第78話ではボヤッキーに決め台詞を先に言われて、ガンちゃんの胸にすがりついて泣き出した。稀だが一部の回ではボヤッキーやトンズラーとの戦いで二人にセクハラをされたり、第75話ではとっさの機転で自爆しようとするドクロベエのロボットを投げたボヤッキーにより下着姿にされたことがある。シリーズ後半でドロンジョに「2号さん」と揶揄される。ガンちゃんとは相思相愛だが、ガンちゃんとドロンジョが良い雰囲気になるとしばしば嫉妬心を露わにし、シビレステッキで制裁することもあった。第101話で描かれた50年後の姿では、丸々と太って笑顔を絶やさない温厚なキャラクターになっていた。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



1977年

2023.03.13

<http://moto-material.lsv.jp/>

タイムボカンシリーズの悪役たち

11年



【ドロンジョ】声 - 小原乃梨子
 ドロンボー味のリーダー兼お色気担当。身長173cm。24歳。「ドロンジョ様」「ドロンコ」などの呼称を持ち、金銀宝石を愛するドロンボー味の女ボス。スタイル抜群で頭脳明晰な金髪碧眼の美女だが本シリーズ歴代女ボスの中でも最も特徴ある大きなフード型の仮面を被っている。初期ではインチキ商売の際は素顔のまま行っていたが、中盤以降ペルソナを付けたままで行っている。普段は髑髏型のキセルでタバコを吸い、吐き出す煙が髑髏状である。ヤッターマンが名乗る時や、ヤッターメカの出勤時に悪態をつくことが多い。ただし、第88話でヤッターマン1号の瞳を間近に見て以降、1号に恋心を抱き、困惑することがしばしばあった。フライドポテトが好物で、第5話によるとネズミとコンニャクが大嫌い。子供のころ、ネズミに鼻を噛まれたことがトラウマで、それ以来ネズミが嫌いになった。コンニャク嫌いの原因は、昔、コンニャクを食べて中毒になったことらしい。戦闘は基本的にボヤッキーとトンズラーに任せているが第5話など一部の回では自ら戦いに参加したり、メカを操る回もある。口は悪く恩を仇で返すこともあるが根は情に篤く、さっぱりとした性格でいい話を聞いて涙を流すこともある。ボヤッキーとトンズラーをこき使う一方で死んだと思うと悲しんだり、希によっては失敗を許すなどボスらしく面倒見が良い一面もある。主要人物の中で唯一過去の経歴が作中で語られていない。ドロンボーが解散になった際、ボヤッキーとトンズラーに「いい女は振り返らないものなんだよ」と涙ながらに語っていた。一方、ボヤッキーからは「売れ残り」（婚期を逃した女性という意味）、「お嫁のもらい手がない」などと、結婚できないことを揶揄されることがよくある。第91話では「黒い服を着て体は白くて売れ残るとシワシワになるもの」というなぞなぞに対し、「ドロンジョ様」と即答されたほどである（正解はナス）。ネタのひとつに、ドロンジョのポロリシーンが多く見受けられる。第101話で描かれた50年後の姿は、すっかり萎びてしまい、入れ歯をしていた。またヤッターマン1号からメカ戦を持ちかけられた際には「おトイレが近いから」と即座に受け入れた。遠慮なくヤッターマン1号に抱きつき、気があるところも見せるが、ヤッターマンに敗れたことを知るや、血圧が上がり過ぎて倒れてしまった。1960年代のフランス映画「ファントマ」シリーズにヒロインとして出演した、ミレーヌ・ドモンジョがモデルとされる。

2023.03.14

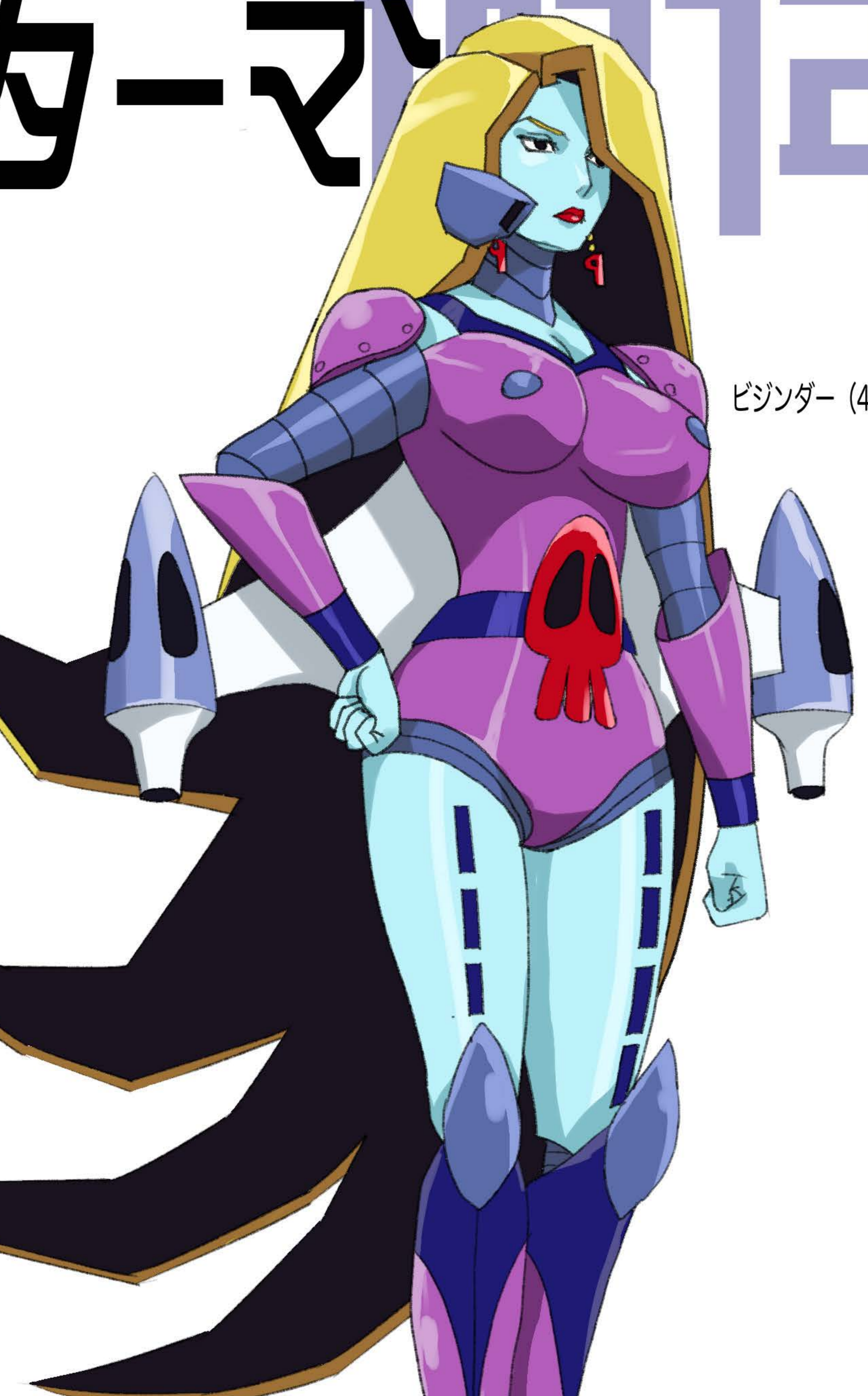
【トンズラー】声 - たてかべ和也
 ドロンボー味の怪力担当。フルネームはスタコラ・トンズラー。身長138cm。30歳。ボヤッキーと同様に、フルネームは『ドロンボーの嘆き唄』においてネタに使われている。元プロレスラーで岩手県出身だが、関西弁を多用し語尾に「～まんねん」を付けて話す。初期はボヤッキーを名前で呼んでいたがその後は『ボヤやん』と呼んでいる。主に序盤のインチキ商売で料金を渋る客への恐喝や、現地でのドクロストーン探しで自分たちに協力しない人間（主にエピソードのゲスト）への脅かしや暴力を担当し、モブキャラやゲストキャラにはめっぽう強い。しかしヤッターマンには敵わず、ボヤッキー共々ボスのドロンジョに助けを求めて泣き絶えるなど小心な部分もある。実はハゲているもしくはちょんまげだったことがある。また、頭が悪いので洞察力に劣る。ドクロベエのことを「ドクヤン」もしくは「ドクベエはん」と呼んでいる。第101話で描かれた50年後の姿では、シビステッキの電撃を受けて痛がるどころか気持ち良さそうにしており（ボヤッキーも同様）後の第2作目でもこの設定は使われた。

【ボヤッキー】声 - 八奈見乗児
 ドロンボー味のメカ設計開発・作戦担当。フルネームはブツサ・ボヤッキー。身長168cmだが、第14話から第26話まではドロンジョより、長身に描かれていた。25歳。このフルネームは、3人の中で唯一第1話にて紹介された他、『ドクロベエさまに捧げる歌』においてネタとして使われている。福島県会津若松市出身。故郷におハナちゃんという恋人を残し、ドロンボー味に入るため上京してきた。オネエ言葉で話し、女子高生好き。一人称は「アタシ」または「ボクちゃん」、ごくまれに「私」や「俺」の場合もある。売り上げをくすねるなどセコイところがあるが約束を守るなど妙に真面目な部分もある。後半に入ってから、ナレーターのフレーズ「説明しよう」を多用するようになり、ドロンジョに「富山敬ちゃんの領域を奪うな」と言われたことがある。「全国の子供高生生の皆さん」やボタンを押す際の「ポチッとな」（第28話より多様）などの決まり台詞がある。物語の中期から後期にかけては、完成したメカを披露する際に「全国〇x協会推薦です」の一言が入ることがある。第78話ではヤッターマンが述べる決めのセリフを先に口にしてアイちゃんを泣かせた。普段からゴーグルを着用している。メカ戦ではいつも余計な物や縁起の悪いメカを作ったり、変なところで拘ってその弱点を毎回ヤッターマンに見抜かれて返り討ちに遭うが一方で天才を称しているだけにごく僅かな資金でもヤッターメカと互角に渡るメカを作ったり、ゾロメカが出るまでは追い詰めることはできる。ボスのドクロベエに対して「ドクちゃん」と馴れ馴れしく呼んでは余計なことを言って怒りを買うことが多く、お仕置きを受けるときは「ドクベエ」と呼び捨てにして不満を嘆くことが多い。第101話で描かれた50年後の姿では、すっかり萎びてしまっており、ゾロメカを出そうとファンファーレをやるうとしたところ、顎が外れてしまった。最終回では、新ボスに推薦されたため、ドロンボーが解散することに一番納得しておらずドロンジョを説得する場面があるも、結局解散することになり、故郷で晴れておハナちゃんと結婚してソバ屋をひらいた。後の王道復古での彼は「今の生活を壊したくない」という理由で唯一レースの参加を断り、2人からの誘いも無視するほどであったが、ドロンボーのピンチに見ておられずに駆けつけ、危機を救った。タイムボカンシリーズの三悪の中の頭脳担当（グロッキー、ボヤッキー、セコビッチ、コスイネンなど）は笹川ひろしがモデルの一人とされている。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

タイムボカンシリーズ ヤッターマン

話数	サブタイトル	脚本	演出	作画監督
第1話	ヤッターマン出動だコロソ	鳥海尽三	笹川ひろし	宇田川一彦
第2話	ブジプトの水売り娘だコロソ	鈴木良武	奥田誠治	芦田豊雄
第3話	フロダリビーチの大王だコロソ	山本優	後藤雷太	芦田豊雄
第4話	北極海のアザラシだコロソ	山本優	石黒昇	宇田川一彦
第5話	イルカ王国の宝だコロソ	石井喜一	後藤雷太	宇田川一彦
第6話	トンカの神殿を守るコロソ	鈴木良武	奥田誠治	田中英二
第7話	レオのカーニバルだコロソ	陶山智	長谷川康雄	宇田川一彦
第8話	イマラヤの雪男だコロソ	山本優	石黒昇	さかいあきお
第9話	アフリシャ探検だコロソ	掘田史門	後藤雷太	海老沢幸男
第10話	ナス湖のナッシーだコロソ	山本優	奥田誠治	大貫信夫
第11話	ナゾの三角領域だコロソ	山本優	大貫信夫	宇田川一彦
第12話	トースター島の秘密だコロソ	佐藤和男	小林三男	みぶおさむ
第13話	びっくりアマゾメスだコロソ	毛利元	長谷川康雄	宇田川一彦
第14話	大怪盗ドンパンだコロソ	山本優	原征太郎	芦田豊雄
第15話	ナイプスの少女だコロソ	平和元	奥田誠治	田中英二
第16話	ヤメタイ国の女王だコロソ	毛利元	後藤雷太	宇田川一彦
第17話	ビートルズは歌うでコロソ	山田ひろし	芦田豊雄	海老沢幸男
第18話	赤ちゃんパンダが生れるコロソ	原田益次	長谷川康雄	-
第19話	ああ！ファンパルジャンでコロソ	山本優	真下耕一	田中英二
第20話	暗黒街のカッポレだコロソ	山本優	布川ゆうじ	宇田川一彦
第21話	燃えよ！レッドスリーだコロソ	掘田史門	真下耕一	宇田川一彦
第22話	ナイババの宝だコロソ	鈴木良武	奥田誠治	アベ正己
第23話	フラダースの猫だコロソ	小出良一	大貫信夫	大貫信夫
第24話	ナイチンガールは天使だコロソ	鈴木良武	奥田誠治	入間市
第25話	ナゼカ平原の宇宙人だコロソ	鈴木良武	後藤雷太	宇田川一彦
第26話	狼女がやって来たコロソ	掘田史門	奥田誠治	海老沢幸男
第27話	地底国の大冒険だコロソ	山本優	長谷川康雄	大貫信夫
第28話	月世界のかぐや姫だコロソ	毛利元	芦田豊雄	田中英二
第29話	ソーケー牧場の決闘だコロソ	石井喜一	野村和史	アベ正己
第30話	キングモングの島だコロソ	山本優	奥田誠治	林政行
第31話	ドピンソン・クロスルだコロソ	吉田喜昭	野村和史	
第32話	南極点のドクロだコロソ	桜井正明	奥田誠治	
第33話	モーロック・オームズだコロソ	山田ひろし	野村和史	
第34話	謎のヘンクツ王だコロソ	山本優	布川ゆうじ	
第35話	海底ほとほとマイルだコロソ	鈴木良武	奥田誠治	
第36話	ハルメンカスバに帰るコロソ	竹内進	野村和史	
第37話	ケチスの商人だコロソ	山本優	大貫信夫	
第38話	忍者サスケは男だコロソ	毛利元	奥田誠治	
第39話	エカコシストだコロソ	山本優	真下耕一	
第40話	ブーブルースのカップだコロソ	是恒雄太	奥田誠治	
第41話	ピノッキンは良い子だコロソ	掘田史門	長谷川康雄	
第42話	国際列車パニックだコロソ	竹内進	奥田誠治	
第43話	白鳥の王子だコロソ	鈴木悠紀	野村和史	
第44話	ドロンボー三銃士だコロソ	鈴木良武	奥田誠治	
第45話	雪女の秘密だコロソ	石井喜一	長谷川康雄	
第46話	アイアムテルは勇者だコロソ	小出良一	芦田豊雄	
第47話	家あり子の冒険だコロソ	海老沼三郎	奥田誠治	
第48話	死のレースに挑戦だコロソ	山田ひろし	長谷川康雄	
第49話	オニエ山のスッテン童子だコロソ	山本優	野村和史	
第50話	柿太郎の鬼退治だコロソ	平和元	奥田誠治	
第51話	カエルの王子様だコロソ	掘田史門	長谷川康雄	
第52話	海賊船長シルバーだコロソ	山本優	奥田誠治	
第53話	怪力ヒネクレスだコロソ	鳥海尽三	野村和史	
第54話	赤鯨を狙えだコロソ	鈴木良武	奥田誠治	
第55話	カン流島の大決闘だコロソ	佐藤和男	芦田豊雄	
第56話	ピンクペアのベルトだコロソ	毛利元	長谷川康雄	
第57話	カッパ河原の決戦だコロソ	平和元	野村和史	

話数	サブタイトル	脚本	演出	作画監督
第30話	キングモングの島だコロソ	山本優	原征太郎	田中英二
第31話	ドピンソン・クロスルだコロソ	吉田喜昭	芦田豊雄	海老沢幸男
第32話	南極点のドクロだコロソ	桜井正明	長谷川康雄	芦田豊雄
第33話	モーロック・オームズだコロソ	山田ひろし	奥田誠治	田中英二
第34話	謎のヘンクツ王だコロソ	山本優	野村和史	アベ正己
第35話	海底ほとほとマイルだコロソ	鈴木良武	布川ゆうじ	大貫信夫
第36話	ハルメンカスバに帰るコロソ	竹内進	奥田誠治	林政行
第37話	ケチスの商人だコロソ	山本優	野村和史	田中英二
第38話	忍者サスケは男だコロソ	毛利元	大貫信夫	宇田川一彦
第39話	エカコシストだコロソ	山本優	奥田誠治	芦田豊雄
第40話	ブーブルースのカップだコロソ	是恒雄太	長谷川康雄	大貫信夫
第41話	ピノッキンは良い子だコロソ	掘田史門	奥田誠治	宇田川一彦
第42話	国際列車パニックだコロソ	竹内進	野村和史	宇田川一彦
第43話	白鳥の王子だコロソ	鈴木悠紀	奥田誠治	宇田川一彦
第44話	ドロンボー三銃士だコロソ	鈴木良武	長谷川康雄	海老沢幸男
第45話	雪女の秘密だコロソ	石井喜一	芦田豊雄	林政行
第46話	アイアムテルは勇者だコロソ	小出良一	奥田誠治	酒井あきお
第47話	家あり子の冒険だコロソ	海老沼三郎	野村和史	宇田川一彦
第48話	死のレースに挑戦だコロソ	山田ひろし	長谷川康雄	海老沢幸男
第49話	オニエ山のスッテン童子だコロソ	山本優	野村和史	アベ正己
第50話	柿太郎の鬼退治だコロソ	平和元	奥田誠治	林政行
第51話	カエルの王子様だコロソ	掘田史門	長谷川康雄	酒井あきお
第52話	海賊船長シルバーだコロソ	山本優	奥田誠治	海老沢幸男
第53話	怪力ヒネクレスだコロソ	鳥海尽三	野村和史	宇田川一彦
第54話	赤鯨を狙えだコロソ	鈴木良武	奥田誠治	林政行
第55話	カン流島の大決闘だコロソ	佐藤和男	芦田豊雄	海老沢幸男
第56話	ピンクペアのベルトだコロソ	毛利元	長谷川康雄	酒井あきお
第57話	カッパ河原の決戦だコロソ	平和元	野村和史	中村たかし



ビジンダー (43話)

ドロンボー味の巨大メカ
 第1話でのレストラン→台所用品をモチーフにしたダイドコロソなど、その話のインチキ商売がテーマとなっているデザインのものほとんど。インチキ商売で得た資金を元手に、全てボヤッキーが設計し、トズラーと共同で製作している。操縦と攻撃も主にボヤッキーの役目だが、ドロンジョやトズラーも操縦や攻撃を担当することがある。コアとなるメカが基本的に存在しないが、第55話および第57話では、コアメカらしき物があった。コクピットの背後にはドロンジョ専用のバズルムがある。まれに、「予算の関係」だと言って、冷凍食品が積んであったことが2度ほどあった。中盤からは視聴者からのアイディアによるメカ、さらに「全国〇〇協会推薦メカ」が登場するようになる。
 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

タイムボカンシリーズ 剣道マスター マンガ11年

話数	サブタイトル	脚本	演出	作画監督
第58話	舌切りインコだコロ	山本優	笹川ひろし	林政行
第59話	ポケットマン参上だコロ	佐藤和男	長谷川康雄 押井守	海老沢幸男
第60話	アタランデスの海坊主だコロ	毛利元	野村和史 布川ゆうじ	酒井あきお
第61話	マンジュとスシ王だコロ	山本優	長谷川康雄 奥田誠治	林政行
第62話	空飛ぶ孫六空だコロ	山本優	案濃たかし 芦田豊雄	海老沢幸男
第63話	イヤミ重太郎だコロ	山本優	長谷川康雄 環忍	中村たかし
第64話	タコの惑星だコロ	山本優	長谷川康雄 八尋旭	落合正宗
第65話	らしょう門の鬼だコロ	酒井あきよし	案濃たかし 八尋旭	落合正宗
第66話	ハレマンジャロの大爆発だコロ	西島大	長谷川康雄 八尋旭	楠田悟
第67話	剣道一直線だコロ	堀田史門	福村典義 芦田豊雄	酒井あきお
第68話	雪の女王だコロ	鈴木悠紀	案濃たかし 野村和史	楠田悟
第69話	マボロスト山征服だコロ	鈴木良武	福村典義 芦田豊雄	海老沢幸男
第70話	くらい山のひよ若丸だコロ	酒井あきよし	福村典義 八尋旭	大貫信夫
第71話	泣き虫鉢かぶり姫だコロ	佐藤和男	植田秀仁 八尋旭	林政行
第72話	ネムール森の美女だコロ	高木良子	長谷川康雄 環忍	楠田悟
第73話	釜ゆでゴエモンだコロ	山本優	長谷川康雄 山田朝吉	さかいあきお
第74話	ハシレメドスの友情だコロ	山田ひろし	案濃たかし 八尋旭	楠田悟
第75話	忍術ジライヤだコロ	鳥海尽三	福村典義 芦田豊雄	海老沢幸男
第76話	天の川の決闘だコロ	酒井あきよし	海老沢幸男 案濃たかし	さかいあきお
第77話	銅飯面だコロ	鈴木良武	芦田豊雄 案濃たかし	林政行
第78話	ランプ売りの少女だコロ	山本優	長谷川康雄 布川ゆうじ	楠田悟
第79話	グズの魔法使いだコロ	佐藤和男	福村典義 八尋旭	楠田悟
第80話	サトミ三犬伝だコロ	山本優	福村典義 布川ゆうじ	海老沢幸男
第81話	凡才画家ゴーマンだコロ	酒井あきよし	案濃たかし 八尋旭	楠田悟
第82話	塚原ボケ伝だコロ	山本優	福村典義 布川ゆうじ	さかいあきお
第83話	半里の長城だコロ	山本優	長谷川康雄 布川ゆうじ	海老沢幸男



話数	サブタイトル	脚本	演出	作画監督
第84話	勇士スパルタオスだコロ	山本優	大貫信夫	大貫信夫
第85話	人魚姫だコロ	鈴木悠紀	植田秀仁	林政行
第86話	ジャンダックは聖女だコロ	毛利元	山谷光和 案濃たかし	佐久間信
第87話	アラランの魔法のランプだコロ	高木良子	八尋旭 長谷川康雄	楠田悟
第88話	赤毛のランだコロ	海老沼三郎	八尋旭 福村典義	楠田悟
第89話	ノキホーテだコロ	山本優	布川ゆうじ 長谷川康雄	さかいあきお
第90話	コロンボスの珍大陸だコロ	山本優	八尋旭 長谷川康雄	海老沢幸男
第91話	わらしべノソ太だコロ	佐藤和男	布川ゆうじ 福村典義	佐久間信
第92話	春の夜の夢だコロ	鈴木悠紀	長谷川康雄 布川ゆうじ	林政行
92話	春の夜の夢だコロ	鈴木悠紀	長谷川康雄 布川ゆうじ	林政行
第93話	あっぱれトマトコケルだコロ	山本優	長谷川康雄 植田秀仁	大貫信夫
第94話	レフト兄弟だコロ	佐藤和男	大貫信夫 矢沢規夫	長谷川憲生
第95話	ユメノパトラだコロ	山本優	岩田弘 山谷光和	中村たかし
第96話	夕さぎの恩返しだコロ	筒井ともみ	山谷光和 案濃たかし	前田康成
第97話	ぶんぶくお釜だコロ	日高武治	八尋旭 長谷川康雄	木下ゆうき
第98話	迷犬ラッキーだコロ	山田ひろし	岩田弘 布川ゆうじ	アベ正己
第99話	アーサー王の剣だコロ	鈴木良武	長谷川康雄 山谷光和	林政行
第100話	エンゼルとグレートルだコロ	高木良子	案濃たかし 矢沢規夫	長谷川憲生
第101話	アレスサンダー大王だコロ	山本優	岩田弘 山谷光和	中村たかし
第102話	ヤシントン大統領だコロ	山本優	山谷光和 長谷川康雄	平山則雄
第103話	シッパイツァーだコロ	山田ひろし	植田秀仁	平山則雄
第104話	イヤ王だコロ	佐藤和男	山谷光和 長谷川康雄	前田康成
第105話	コレクター博士だコロ	酒井あきよし	八尋旭 岩田弘	鈴木英二
第106話	二宮銀次郎だコロ	海老沼三郎	布川ゆうじ 高井戸仁	中村たかし
第107話	ドジソンの大発明だコロ	山本優	岩田弘	木下ゆうき
第108話	アワテルローの戦いだコロ	山本優	八尋旭 岩田弘	鈴木英二

【登場キャラクターのその後】

本作品のキャラは、後にリバイバル企画『タイムボカン王道復古』のOVAにおいてその後が描かれた。三悪についてはCD『タイムボカン名曲大全』で、タイムボカン王道復古までの解散後のエピソードを聞くことができる他、平成タイムボカンでは再びドロンボーを結成し主役を務めている。ガンちゃんといちゃんは結婚し、見ている方が恥ずかしくなるほどのアツアツ新婚生活（いわゆる「バカップル」）を送っていた。オモッチャマがドロンボー復活を知らせに駆け込んできても、相手にしてもらえなかった。なお、普段の服装はツナギではない。ヤッターキングは再度改修され、ヤッターワンFZ（ファイナルゼット）へとパワーアップ。全身にミサイルポッドなどの強力な武器を装備している。ドロンジョも西麻布のスナックのママを経た後、ドロンボーのメンバー以外の男性と結婚し、既に子持ちとなっていた。7歳を筆頭に5人の年子がいるという。ポヤッキーはドロンボー解散後、一時期六本木のホストクラブで「ヘルニアのポヤ」という有名売れっ子ホストになるが、その後は故郷・会津若松市に住む恋人・おハナちゃんと結婚し喜多方蕎麦屋を国分寺市で経営する。『王道復古』の作中ではガッチャマンのと南部博士にコロクそばを食い逃げされていた。『平成タイムボカン』ではハッピーという名前の娘も登場する。トンズラーはウサギ売りのテキ屋をやっていたが、その後芸能プロダクションのマネージャーに転職し辣腕を振るっている。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2023.03.16